

配置計画

既存の樹木を残しながら、まとまったオープンスペースを確保

(1) オープンスペースの確保

- ・建物の配置については、庁舎を敷地南側に、(仮称)新福社会館は敷地東側に配置することで、敷地北側に広いオープンスペース(駐車場、ひろば)を設ける計画とします。
- ・庁舎は地上のオープンスペースを確保しつつ必要面積を確保するため、上層階が迫出す建物形状とし、また、(仮称)新福社会館の1階をピロティ空間とすることにより、地上面のオープンスペースを確保します。

(2) 既存樹木の活用、ひろばの配置

- ・現在、敷地内にある既存樹木は、できる限り、残すように計画します。また、小さなひろばを隣地との境界に配置することで、隣地との緩衝帯を確保するとともに、魅力的なアプローチ空間を整備します。

(3) アクセス空間の整備

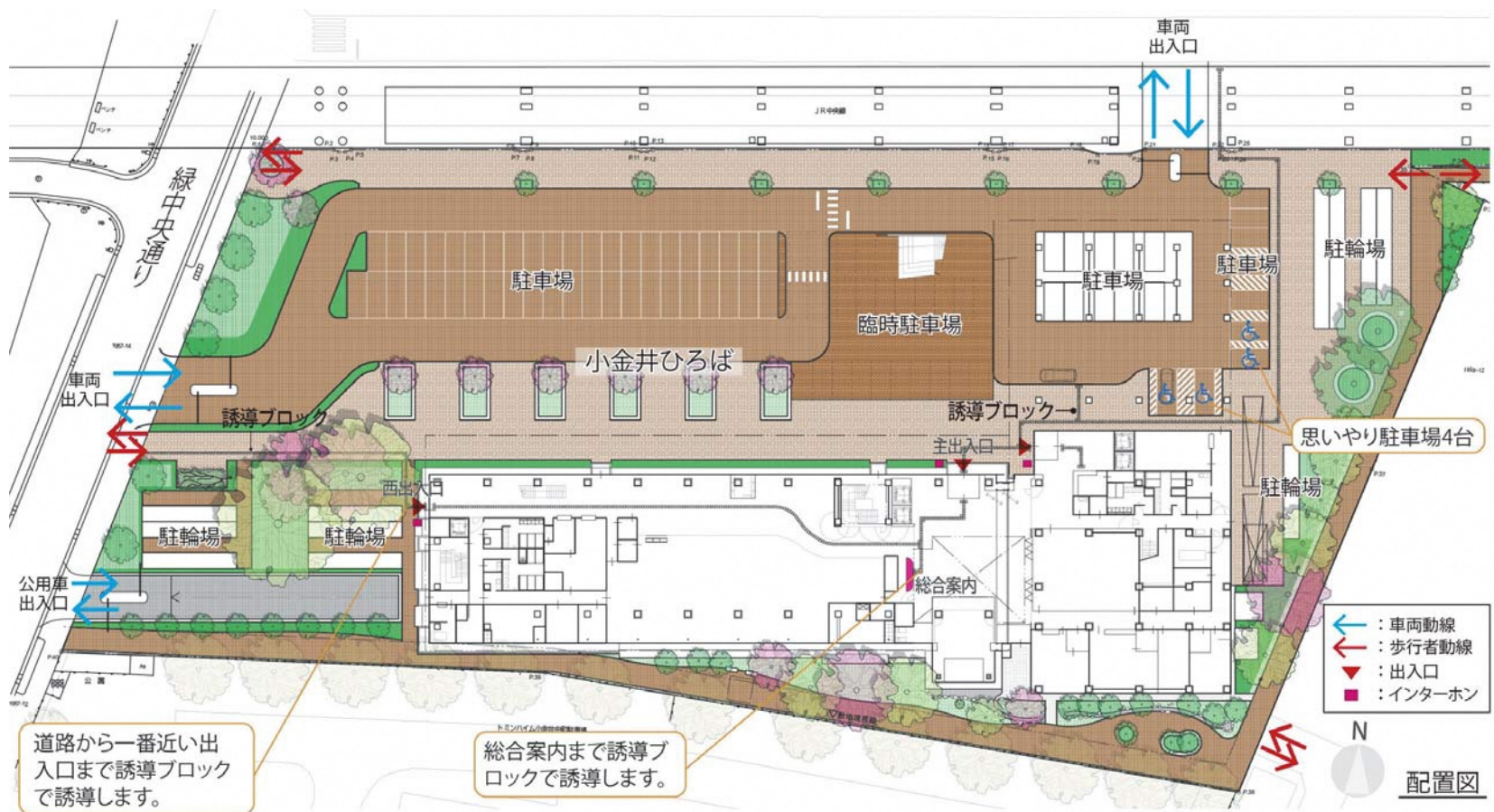
- ・敷地外周部に植栽や歩道を整備することにより、複数の方向からのアクセスが可能となります。歩行者、自転車が安全で快適にアクセスできる計画とします。

(4) 臨時駐車場

- ・臨時駐車場は平常時は人が集えるようなスペースとして、繁忙期は臨時駐車場として使用できるよう整備します。なお、臨時駐車場を含め、地上部の駐車場は、発災時及びイベント時の使用等を考慮し、タイヤ止めを設けない計画とします。

ユニバーサルデザイン

- ・インターホンの設置  
敷地西側から一番近い建物出入口、ピロティの車止めから建物の主出入口にはインターホンを設置することにより、視覚障害のある方や車いす利用者等が支援を必要とするときには、案内、誘導などにつながる仕組みが構築できるよう計画します。
- ・敷地内・建物内の段差を極力なくし、傾斜路は1/15以下となるよう計画します。
- ・出入口に近接して、思いやり駐車場を4台設置します。



道路から一番近い出入口まで誘導ブロックで誘導します。

総合案内まで誘導ブロックで誘導します。

環境計画

敷地特性を活かしたパッシブ手法を積極的に導入

- ・東西に長い敷地特性や建物形状を活かし、卓越風、自然採光等のパッシブ手法を積極的に導入します。また、高効率設備を設置するアクティブ手法を効果的に組み合わせ、心地よい環境を作りつつ、環境負荷軽減に配慮した建物にします。
- ・雨水は、自然の循環サイクルとして貴重な水資源となるため、雨水を貯留し、トイレ洗浄水や緑地への散水に利用することで省エネルギーを実現します。
- ・車路には、透水性の合材を使うことで、雨水を地下へ浸透させ、敷地外への雨水の流出を抑制しながら、水資源の循環に寄与します。
- ・歩行路は、保水性の高い土を固めた舗装とし、輻射によりヒートアイランド現象を低減します。

